

会 報

METAL FORM

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

No. 96

2025年10月

CONTENTS

ぼてんしゃる

- 2 皆さんの様々な声をお聞きしながらものづくり産業の未来への橋渡しを担う
経済産業省 製造産業局 素形材産業室長 大今 宏史

報告

- 3 MF-TOKYO 2025 第8回プレス・板金・フォーミング展 結果報告
7 EXHIBITION REPORT 学生来場誘致企画
9 EXHIBITION REPORT 来場者分析／来場者アンケート／海外来場者の動向／出展者アンケート

新製品情報

- 11 ACサーボプレスH1F200-2 Upgrade コマツ産機株式会社

報告

- 12 報告Ⅰ 日本塑性加工学会・日本鍛圧機械工業会 産学連携企画(第102回塑性加工技術フォーラム)
報告Ⅱ JIMTOF2026(第33回日本国際工作機械見本市)10月1日(水)より出展申込を開始!

INFORMATION FILING

- 13 日鍛工 調査統計委員会2025年暦年 中間受注見通
鍛圧機械 全会員受注グラフ(月次業況調査)
14 新聞報道から見た会員動向(2025年6月10日～9月2日)

工業会の動き
(7月～9月)

MF-TOKYO

- ・MF-TOKYO 2025 第8回プレス・板金・フォーミング展開催(7月16～19日 東京ビッグサイト)
- ・MF-TOKYO 2025 歓迎レセプション(7月16日 東京ビッグサイト)
- ・MF-TOKYO 2025 日鍛工会員出展担当者慰労会(7月17日 東京ビッグサイト)

理事会

- ・第93回(7月29日)競争法コンプライアンスの説明及び誓約、MF-TOKYO 2025 結果速報、女性経営者分科会の発足についてなど。

正副会長会

- ・第54回(7月29日)事務局嘱託職員再雇用について。

委員会

- 企画委員会
・第1回(8月22日 東京湾周辺)東京湾岸物流視察及び日鍛工産業ビジョン策定、女性経営者分科会主催「事業承継セミナー」についてなど。
- JIS B 6402及びJIS B 6403改正原案作成委員会
・第1回(7月31日 オンライン)委員会設立の趣旨・目的、JIS改正案の概要説明についてなど。
- JIS B 6412及び6413改正分科会
・第1回(9月30日 オンライン)改正案の検討(第2回原案作成委員会で審議)。
- 調査統計委員会
・第1回(7月25日)月次受注動向報告日の今後の締切日の設定、2025年暦年・年度受注見通しの審議についてなど。
- 中小企業委員会
・第1回(9月26日 +オンライン)インド視察研修会の開催準備、ポリテク生産性向上支援訓練(補助事業)受託事業の主催についてなど。

専門部会

- 鍛造プレス専門部会
・第1回(8月27日)「鍛造プレス機械の安全作業 危険源と保護方策」の策定と今後の進め方についてなど。
- レーザ・プラズマ専門部会
・第2回(9月19日 オンライン)第3回レーザ機器管理者講習会(7/18開催)の結果報告、ISO 11553-1(レーザ加工機)の和訳案コメント表の審議など。
- レーザサービス分科会
・第27回(9月30日 オンライン)CO₂レーザ加工機定期検査項目の精査について。
- 関東地区部会
・第1回(9月12日 東京湾周辺)東京湾岸物流視察。

講習会

- レーザ機器管理者講習会
・第3回(7月18日 東京ビッグサイト)レーザ・プラズマ専門部会によるレーザ機器管理者が行うべき業務等に関する講習会。



会報 METAL FORM No.96 2025年10月

発行所／一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館3階

TEL.03-3432-4579 FAX.03-3432-4804 URL: <https://j-fma.or.jp/>

発行人／生田 周作 発行／季刊：1月、4月、7月、10月の4回発行

■本誌に掲載した記事の無断転載を禁じます。

皆さんの様々な声をお聞きしながら ものづくり産業の未来への橋渡しを担う

経済産業省 製造産業局 素形材産業室長

大今 宏史



はじめに

この度、製造産業局 素形材産業室の室長に就任いたしました。素形材産業室は初めてですが、自動車課や金属課など素形材に関わりの深い部署にいましたので、過去の経験を活かせればと思っています。また、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)や、前職のF-REI(福島国際研究教育機構)でアカデミアの方々や技術的に詳しい方ともお付き合いさせていただいておりますので、その人脈も活かすことができると考えております。

ものづくり産業の魅力を広くアピールしたい

ものづくりというのは日本が成長を遂げてきた源泉であり、非常に大事な分野で、経済産業省で製造産業局に長年居る身としては、この強さを継承していき、製造業の成長や売上に貢献していくのが使命であると考えています。その中で特に重要だと思うのは人材の確保です。製造業というのは、比較的良質な職を多数生み出しているセクターであることは統計的にも出ています。とはいえ学生の理系離れが問題視されている昨今、ものをつくる仕事がいかに魅力的であるかということをアピールしていくことが重要と考えます。今回、MF-TOKYO 2025を拝見して素晴らしい展示会だと感じました。中でも工業高校の皆さんに来てもらう様に取り組んでいるとお聞きして、業界全体で若い方へものづくりの魅力をアピールする動きをすでにされていることに感銘を受けました。素形材産業室でも大学等への出前授業を行っており、MF-TOKYOと共に、これらの活動が製造業への新たな人材の採用や育成に繋がれば、

これほど嬉しいことはありません。

カーボンニュートラル対応への日本の立ち位置

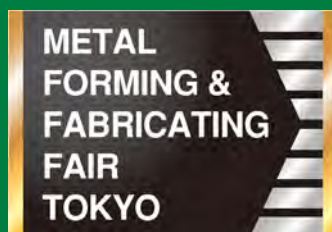
今、製造業を取り巻く環境には多くの課題があり、特にカーボンニュートラルについては、日本独自で取り組むのではなく、世界が協調してやるべき問題であると考えております。そこで日本が解決できる手段をつくり出すことができれば、世界に対しても貢献でき、逆に日本の売りにもなると思います。また、解決の最適な条件を見つけ出し、大きな技術で達成できたとしても、最終的には細かな部分を調整していかなければなりません。その作業は日本人が最も得意とするところですので、良いかたちで日本は貢献できるのではないかと考えています。

ものづくり産業の未来のために

2025年、日本の素形材産業が進むべき方向性を示した「素形材産業ビジョン」が12年ぶりに改訂されました。まずは、提示させていただいた7つの課題に着実に取り組みながら、皆さんのご意見をお聞かせいただければと思っています。

また、省力化、カーボンニュートラルに対応しながら、日本の製造業の競争力を維持・強化するには、設備投資は不可欠です。企業の設備投資の前面に立っているのが日本鍛圧機械工業会の皆さんだと思います。企業の設備投資を促進していくために、日ごろ感じられていることがありましたら是非お聞かせてください。皆さんの声を糧として、ものづくり産業の未来に貢献できればと願っております。

(談)



日本鍛圧機械工業会主催

MF-TOKYO 2025 第8回プレス・板金・フォーミング展 結果報告



不安定な天候にもかかわらず 多くのご来場をいただいた事に感謝。

一般社団法人
日本鍛圧機械工業会
代表理事会長

磯部 任

MF-TOKYO 2025 第8回プレス・板金・フォーミング展が、盛況のうちに無事終了しましたことを報告いたします。今回は、過去最大規模となる271社・団体1,736小間で開催することができました。また、来場者数は31,207名と目標の32,000名には届かなかったものの、会場には熱心なご来場者様がお越しになり、それぞれのブースでは活気のある商談が行われておりました。台風5号の影響で搬入期間から会期前半は、不安定な天候でした。2023年開催は搬入期間、そして会期中にも熱中症警戒アラートが発令される猛暑でしたが、今回は台風の影響か、さほどの暑さにならなかったのは救いでした。そのような天候にもかかわらず、

盛況裏に終了できましたのも、ひとえにご出展頂きました皆様を始め、ご後援やご協賛を賜りました関係各位のご支援・ご協力の賜物であると心より御礼申し上げます。

思い返しますと2023年開催は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、一定の収束はみたものの、不安を感じながら展示会が開催されたと記憶しております。今回、展示会場での活気溢れたやり取りを拝見し、ごく普通に展示会を開催できることの喜びを噛みしめた次第です。

MF-TOKYO 2025の副題は、「人と地球にやさしい技術、持続可能な未来を築く」を掲げました。副題を決めた当初は、カーボンニュートラルやSDGsを意識したものでしたが、コロナ禍明け以降、働き方改革も相まって「人手不足」が大きな社会問題になっている状況を反映して、自動化や省人化をアピールする機械・システムの展示が多く見受けられ、これらもまた「人にやさしい技術」に通ずるのではないでしょう。



● 主催者挨拶
磯部 任 日本鍛圧機械工業会会長



● 来賓祝辞
大今 宏史 経済産業省素形材産業室長



● 来賓祝辞
樋渡 俊二 日本塑性加工学会会長

- 副題 人と地球にやさしい技術、持続可能な未来を築く
- 会期 2025年7月16日(水)～19日(土) 10:00～17:00
(最終日は16:00)
- 会場 東京ビッグサイト 東4・5・6・7・8ホール
- 出展者数 271社・団体(共同出展含め329社・団体)
〈前回2023年開催: 233社・団体(同270社・団体)〉
海外系出展: 15カ国78社〈前回 14カ国54社〉
- 出展小間数 1,736小間〈前回 1,677小間〉
- 来場者数 31,207名〈前回 28,219名〉
(うち海外来場者 1,039名 〈前回 1,015名〉)
- 7月16日(水) 6,035名
- 7月17日(木) 8,055名
- 7月18日(金) 11,926名
- 7月19日(土) 5,191名

MF-TOKYOでは、2017年開催より、学生来場誘致に取り組み、学生の皆さんがご来場した際に見学しやすくする「ルートマップ」企画を展開しております。これは、塑性加工等を研究する大学教授が定年を迎え漸減し、そのため塑性加工や鍛圧機械に接する学生も減る傾向にあることから、MF-TOKYOで塑性加工等に興味・関心を持ってもらえればと企画したものです。2019年開催からは、学生バスツアーも実施し、今回は13大学から230名を超えるご参加をいただきました。

MF-TOKYO 2025は、「学生誘致」に関してエポックメイキングの年であったと言えます。それは、初めて工業高校6校と工業高等専門学校1校から650名を超える生徒の皆さんにご参加頂けたからです。工業高校では旋盤などの切削加工の実習が行われる事が多いと思いますが、MF-TOKYOで展示されるプレス機械や板金機械などの様々な鍛圧機械を初めて見る生徒の皆さんがほとんどではないでしょうか。「こんな加工をする機械があるのか」と鍛圧機械に少しでも興味や関心もってもらえれば大成功と思っております。

学生バスツアー並びにルートマップ企画を通して、将来の塑性加工の研究者や鍛圧機械産業を目指す学生・生徒の皆さんが増えることを願い、次回以降のMF-TOKYOでも継続して取り組みたいと考えております。

MF-TOKYOは、特別協賛等で各学会や団体の皆様から多大なご支援・ご協力を頂いております。日本塑性加工学会様からは、今回も学会テクニカルセミナー並びに14ブースによる研究室展示など「塑性加工」の学術情報を多数発信頂きました。日本鍛造協会様は、会

員29社・団体による「鍛造祭」と称した活気のあるご出展を頂きました。日本金属プレス工業協会様、日本工作機械工業会様、日本ばね工業会様、日本ロボット工業会様、レーザ協会様にもご出展頂きました事、感謝申し上げます。

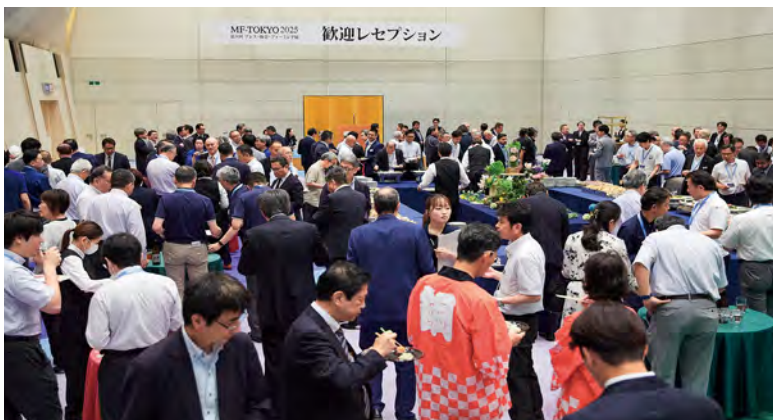
鍛圧機械と塑性加工技術の総合展であるMF-TOKYOは、それらの最新の機械と技術を国内外に情報発信する最適の“場”であり“機会”であると確信しております。日程はまだ決まっておりませんが、次回の2027年開催も、よりよい“場”と“機会”を提供するべく尽力してまいります。皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



●乾杯発声
長利 啓正 日鍛工広報見本市委員長



●中締め
神阪 拓 日刊工業新聞社代表取締役社長



●多くの方にご出席をいただいた活気溢れる歓迎レセプション会場



日本塑性加工学会の MF-TOKYO 2025への特別協賛

一般社団法人 日本塑性加工学会
令和7年度産学連携委員会 委員長

柳田 明（東京電機大学・教授）

MF-TOKYO2025では、4年ぶりのリアル開催であった2023年よりも多くの来場者(1割増)を迎えることができた。日本塑性加工学会では、特別協賛学会として、2009年より参画させていた。日本鍛圧機械工業会との協調体制によって、鍛圧機械技術のさらなる発展・活性化に貢献し、当該技術分野の将来の担い手である学生に関心を持ってもらうことを目的としている。第60期理事会の産学連携委員会は、日本鍛圧機械工業会と共同で、以下の企画を立案・実行したので、概要を報告する。

今回のMF-TOKYOでは、「人と地球にやさしい技術、持続可能な未来を築く」をサブテーマとし、①「自動化や省人化設備」、②「カーボンニュートラル(CN)に資する製品・技術・サービス」の展示、③「学会・出展者テクニカルセミナー」、④「学生誘致 ルートマップ 企画+学生バスツアー」がメイントピックスとなっているが、日本塑性加工学会では、特に③と④を中心に對して協力した。

1)学会テクニカルセミナー

日本塑性加工学会の学術賞および技術開発賞を受賞した正会員および企業会員に受賞講演をお願いした。加えて、プレス加工や鍛造の分野、データサイエンス分野で活発に活動している大学および公設研究機関の研究者に講演をお願いした。塑性加工関連17件に、レーザ加工学会、日本ばね学会、日本ねじ研究協会、レーザ協会による講演を加え、合計24件のセミナーが開催され、総計985名の聴講者を得て、大変盛況であった。

2)大学研究室発表会・大学研究室 展示ブース

大学研究室展示ブースでは、1研究室当たり2m×2mの区画が提供された。展示パネルや実験サンプルや小型の実験装置などを用いて、教員や学生が来場者に熱心に研究成果を説明していた。大学研究室発表会では、日本塑性加工学会の井村事務局長より学会の活動状況が紹介された。続いて、塑性加工学・塑性力学関係の研

究を行っている13の大学研究室や支部などから、持ち時間15分で研究内容や活動状況が紹介された。

3) 学生誘致プログラム、

ルートマップと無料送迎

前回到引き続いて、学生たちが“出展メーカ・ルートマップ”にしたがって各社のブースを巡回し、ノベルティ商品を収集する企画を催した。今回も日本鍛圧機械工業会の御支援を得て、大学キャンパスからMF-TOKYOの会場まで直接バス送迎するサービスを実施した。前回の7大学から今回は13大学、1高専に倍増し、277名の学生がバス送迎サービスを利用し、うち1校は遠方でバスでの来場が困難なため、新幹線代の補助を初めて実施した。東海大学から48名、宇都宮大学から38名と多くの学生に参加いただいた。今回からの試みとして工業高校へも声をかけ、6校から計611名にも利用いただいた。バスツアーを利用していない大学からもルートマップに48名(大阪大学、中部大学、東北学院大学など)の参加があり、就職活動に利用されていると考える。これからの産業の担い手である学生たちに鍛圧機械技術の分野に関心をもってもらい、今後の当該分野の発展につながることを期待している。

多大なる御支援を頂戴した、大学および企業関係者各位、ならびに日本鍛圧機械工業会および日刊工業新聞社の皆様に深く感謝いたします。



特別講演

日付		講演者・テーマ
7/18 (金)	11:00 -12:00	カーボンニュートラル社会実現に貢献する青色半導体レーザーを用いた次世代アディティブマニファクチャリング技術の研究開発 大阪大学 接合科学研究所 教授 塚本 雅裕 氏
	14:00 -15:00	日本刀と塑性加工による自動車の軽量化 日産自動車 元塑性加工エキスパートリーダー 日本塑性加工学会名誉会員 藤川 真一郎 氏

講演

プレス技術 × 型技術 Presents 時代の変化を追い風に変える 加工メーカーの新視点		
日付		講演者・テーマ
7/17 (木)	11:00 -12:00	Everyday is a New Beginning! 人と違ったことをやりながら十人を認められる人材づくりこそが… 元ホンダエンジニアリング 車体領域・執行役員 現タンガロイ/エリコンジャパン/金型新聞社 アドバイザー 田岡 秀樹 氏
	14:00 -15:00	小さなものづくり企業の営業改革大作戦 ～今日からできる!技術の価値を伝えるためのマーケティング思考と実践手法～ オフィス・キーツ 代表 新開 潤子 氏
7/18 (金)	15:30 -16:30	「大手企業の注文変動要因と部品加工工場への影響」 注文変動が激しすぎて価格転嫁しても利益につながらない ほんま 代表取締役 本間 峰一 氏



塚本 雅裕 氏



藤川 真一郎 氏



田岡 秀樹 氏



新開 潤子 氏



本間 峰一 氏



特別講演メインステージ



学会テクニカルセミナー会場



日本塑性加工学会 研究発表会場



出展者テクニカルセミナーA会場



出展者テクニカルセミナーB会場



出展者テクニカルセミナーC会場



出展者テクニカルセミナーD会場

学生来場誘致企画

MF-TOKYOでは、日本塑性加工学会様の協力のもと、2017年開催より学生来場誘致に取り組み、学生の皆さんがご来場した際に見学しやすくする「ルートマップ」企画を展開しております。これは、塑性加工等を研究する大学教授が定年を迎え漸減し、そのため塑性加工や鍛圧機械に接する学生も減る傾向にあることから、MF-TOKYOで塑性加工等に興味・関心を持ってもらえればと企画しているものです。2019年開催からは、大学キャンパスと東京ビッグサイト間を直接つなぐ「学生バスツアー」も実施し、3回目となる今回は、大学だけでなく工業高校、工業高等専門学校からもご参加をいただきました。

学生バスツアー並びに「ルートマップ」企画を通して、将来の塑性加工の研究者や鍛圧機械産業を目指す学生・生徒の皆さんが増えることを願い、次回以降のMF-TOKYOでも継続して取り組みたいと考えております。

学生バスツアー

● 大学バスツアー（13大学 234名参加）

日付	大学名（主な専攻・学部）	参加者数(前回)
7/17(木)	群馬大学 太田キャンパス（理工学部）	6名（13）
	宇都宮大学 陽東キャンパス（工学部）	38名（18）
	国土館大学 世田谷キャンパス（理工学部）	15名（11）
	早稲田大学 西早稲田キャンパス（基幹理工学研究科）	2名（5）
	千葉工業大学 津田沼キャンパス（工学部）	13名
	静岡大学 浜松キャンパス（工学部）	22名
7/18(金)	電気通信大学 調布ヶ丘キャンパス（機械知能システム学専攻）	18名
	工学院大学 新宿キャンパス（先進工学部）	5名
	日本工業大学 埼玉キャンパス（基幹工学部）	26名
7/19(土)	東海大学 湘南キャンパス（工学部）	48名（58）
	東京農工大学 小金井キャンパス（工学研究院）	13名（18）
	日本大学 津田沼キャンパス（生産工学部）	19名（13）
	ものづくり大学 前谷キャンパス（情報メカトロニクス学科）	9名

● 工業高校・工業高等専門学校バスツアー（6工業高校 611名、工業高等専門学校 43名）

日付	大学名（主な専攻・学部）	参加者数(前回)
7/16(水)	神奈川県立 神奈川総合産業高等学校（総合産業科 2・3年生）	86名
7/17(木)	神奈川県立 神奈川工業高等学校 【定時制】（機械・建設・電気科 1・2・3・4年生）	91名
	神奈川県立 神奈川工業高等学校 【全日制】（機械科 1・2年生）	142名
	神奈川県立 向の岡工業高等学校（機械科 2年生）	64名
	神奈川県立 磯子工業高等学校（機械科 1・2・3年生）	178名
7/18(金)	神奈川県立 横須賀工業高等学校（機械科 2年生）	50名
7/19(土)	国立木更津工業高等専門学校（機械工学科 第3学年43）	43名

「ルートマップ」企画

MF-TOKYO 2025 ルートマップ企画：学生・高校生・高専生参加者：945名（前回202名）

今回の学生バスツアーでは、大学生と併せ工業高校・工業高等専門学校のバスツアーを行ったことによりルートマップ企画参加数が大幅に伸び、945名の参加となった。（大学生：291名、高校生：611名、高専生：43名）

日本鍛圧機械工業会会員34社（前回26社）の賛同を得て、見どころを記載したマップを作成。その内31社はノベルティを配布頂いた。大学生には、塑性加工学会ブースで来場者証バーコードを読み込み、カタログバックとマップを配布し、高校・高専生はバス到着時に配布を行った。

● ルートマップ企画参加大学（21大学298名）

① 東海大学：48名	⑧ 芝浦工業大学：14名	⑮ 群馬大学：6名
② 宇都宮大学：38名	⑨ 千葉工業大学：13名	⑯ 工学院大学：5名
③ 日本工業大学：26名	⑩ 東京農工大学：13名	⑰ 大阪大学：4名
④ 静岡大学：22名	⑪ 横浜国立大学：11名	⑱ 福井大学：4名
⑤ 日本大学：19名	⑫ 早稲田大学：11名	⑲ 神奈川工科大学：2名
⑥ 電気通信大学：18名	⑬ 東京都立大学：10名	⑳ 東北学院大学：2名
⑦ 国土館大学：15名	⑭ ものづくり大学：9名	㉑ 中部大学：1名



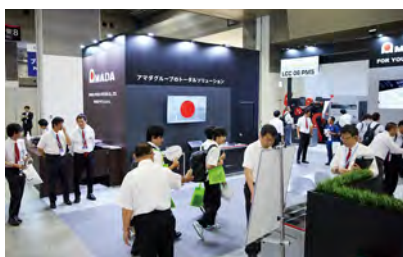
■ 参加学生アンケートから

大学生の“声”

- ・様々な会社の特長や強みを知れて、就活の参考になる有意義な時間を過ごせた。企業ごとにグッズが用意されていることで、その企業が強く印象に残っている。就活の有無関係なく、次回も参加したいと思えた。（東海大学4年）
- ・ルートマップ企画は学生にとって、ありがたい取り組みだと思えます。MF-TOKYOは商談の場なので、学生(特に高校生、初めてMF-TOKYOに参加する学生)は引け目を感じてしまいがちです。ルートマップによって、心配無く企業ブースを見学できていると思います。MF-TOKYOは今回で3回目の参加となりました。毎回新しい知見を得ることができます。（早稲田大学大学院3年）
- ・ルートマップを通じて、業界に対する理解が深まった。また、これまで知らなかった加工技術について学ぶことができた。パスツアーと併催することで、これまであまり当該分野に触れることがなかった学生に幅広く紹介できたこともよかったと感じた。（早稲田大学2年）
- ・プレス機械など大型の工作機械を見ることが出来てよかった。また、実際に稼働している様子を間近に見ることができ、とても面白かった。学生相手でも質問に対し分かりやすい説明があり、非常に多くのことを学ぶことが出来良かった。（東京農工大学4年）
- ・MF-TOKYOでは、最新の加工技術やデジタル技術の融合、環境対応への取り組みなど、実際の装置やソリューションを通して多くの刺激を受けました。企業・大学・研究機関の連携の重要性を再認識するとともに、今後の研究・技術開発へのモチベーションにつながる貴重な体験となりました。（静岡大学大学院2年）
- ・プレス機など様々な企業の製品を実際に見ることができ、製品紹介を聞くことができ、会社ごとの特色、得意にしている分野が違うことを理解することができ、業界に対する理解も深まりました。（工学院大学4年）
- ・今回の展示会は私にとって視野を大きく広げる貴重な機会となりました。機械加工分野の最先端技術に直接触れることで、現在の製造業がどのように進化しているのかを深く理解できただけでなく、この分野に対する興味と情熱がさらに高まりました。今後は、今回学んだことを糧にして、より一層知識と技術の習得に努め、将来この分野で貢献できる人材になれるよう努力していきたいと強く感じました。学生の立場でこのような国際展示会に参加できたことは、かけがえのない経験となり、機械工学を学ぶ意義を再認識するきっかけとなりました。（東海大学2年）

工業高校生の“声”

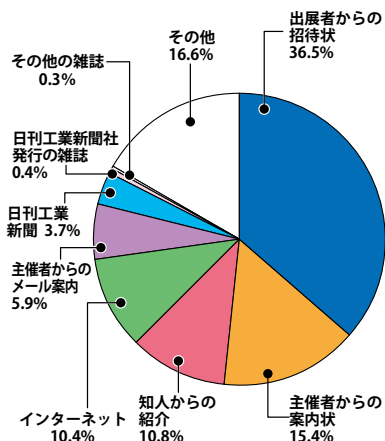
- ・職業に繋がる機械系がいっぱいあって良かった。（礒子工業高校 機械科 1年）
- ・最先端の機械や、ロボットを使った機械など、興味と魅力を感じることができました。とても楽しかったです。（礒子工業高校 機械科 2年）
- ・一つ一つスタッフの方が丁寧に教えてくれてとても嬉しかった。（礒子工業高校 機械科 2年）
- ・会場に大型機械を設置し、実演していることに驚きと生徒に見せることができ良かったと思います。このような機会を作っていただき本当にありがとうございました。（礒子工業高校 機械科 教員）
- ・初めて知った企業や、技術を知る事が出来てとても良い経験になりました。とても楽しかったです。（横須賀工業高校 機械科 2年）
- ・生徒たちに間近で最先端の技術や工作機械を見学させて頂き、工業の業界への興味関心につながる事ができたと思います。ご対応して下さい方々へ感謝申し上げます。（横須賀工業高校 機械科 教員）
- ・とても楽しかったです!!学校では見られない実物の機械を見たりできたのでとても貴重な時間になったと思います。（向の岡工業高校 機械科 2年）
- ・とても就職に関する情報や社会科見学が出来てとても自分に対して良い情報が手に入って嬉しかったです。（神奈川工業高校[全日制] 機械科 2年）
- ・自分の興味のある分野だけでなく、全く新しい将来を考えるきっかけになりました。（神奈川工業高校[全日制] 機械科 1年）
- ・対応を手厚くしてもらい、来て良かったと思った。出展者さんの方も話しかけやすく、説明も分かりやすくて楽しかった。また機会があったら来てみたいと思った。（神奈川工業高校[全日制] 機械科 1年）
- ・日本の機械産業を良く知れて面白く将来の職業も色々考えさせられ楽しい見学でした。（神奈川工業高校[全日制] 機械科 1年）
- ・1年生の間から様々な企業の方々に話を聞かせていただき、色々なことを知れました。またこのようなイベントに参加したいです。（神奈川工業高校[全日制] 機械科 1年）
- ・対応してくださった方々が丁寧に解説してくださり、とても見学しやすかったです。（神奈川総合産業高校 総合産業科 2年）



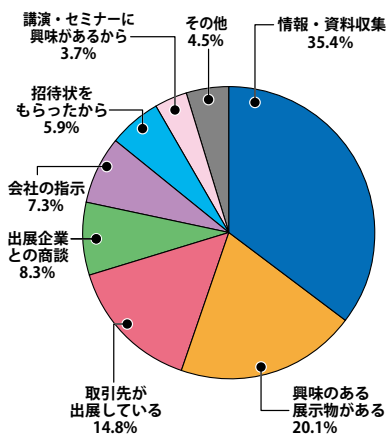
来場者サンプル調査の「来場目的の達成度」では、『十分・ほぼ達成された』が82%（前回85.6%）であったが、『十分達成された』が34.6%（前回26.0%）と初めて30ポイント台に乗る高評価を得ることができた。
また、出展者アンケートの「本展に出展した全体的感想」は86%（前回83.1%）とこれまでで最高の評価であった。

入場登録情報による来場者分析（31,207人）

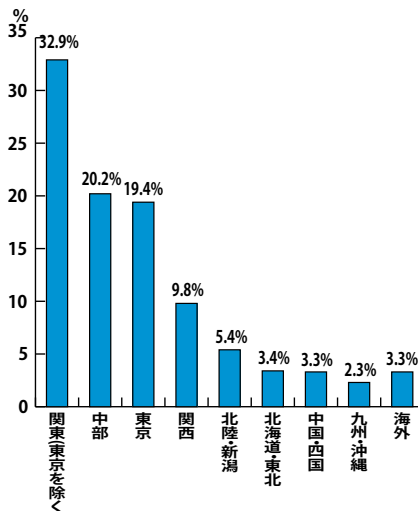
□本展を何でお知りになりましたか？



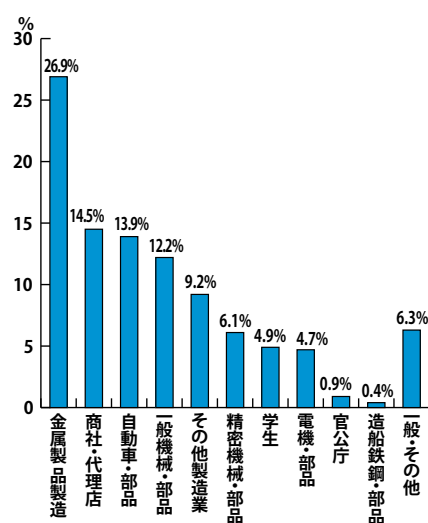
□本展に来られた理由は何ですか？（複数回答可）



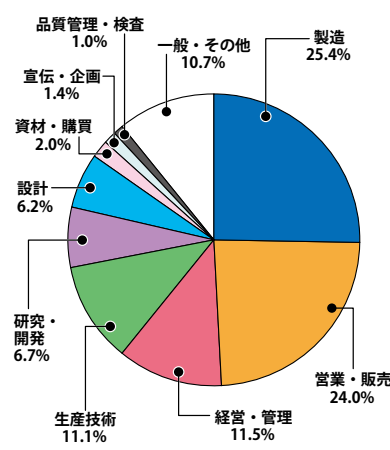
□どちらから来られましたか？



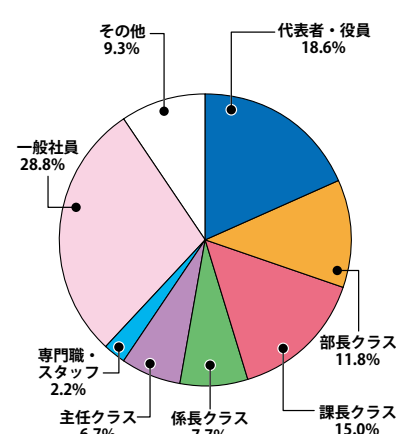
□業種は？



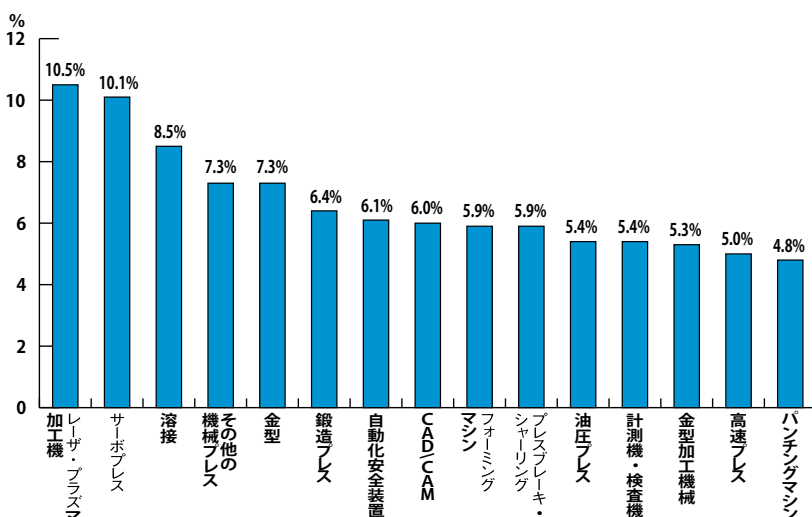
□職種は？



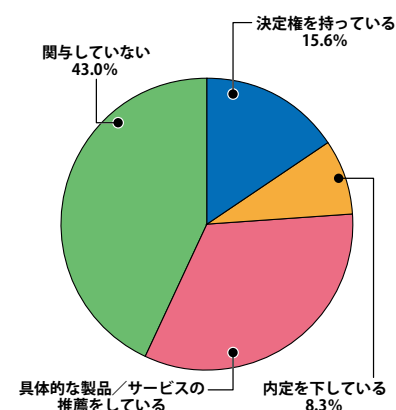
□役職は？



□関心をもった機種は何ですか？（複数回答可）

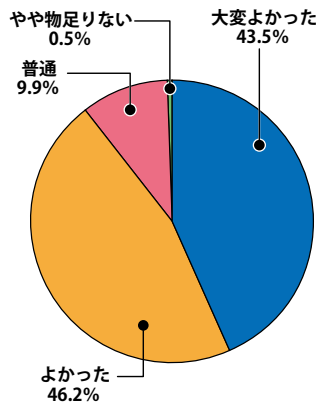


□製品導入に際してどのように関与されていますか？

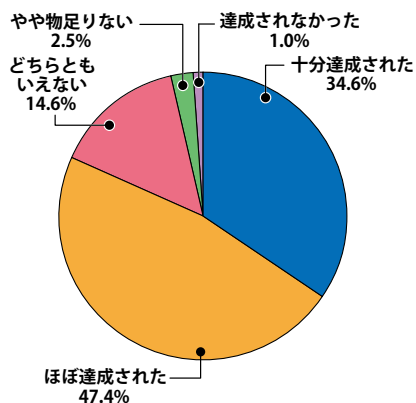


来場者アンケート(405人のサンプル調査)

□本展に出展した全般的感想について



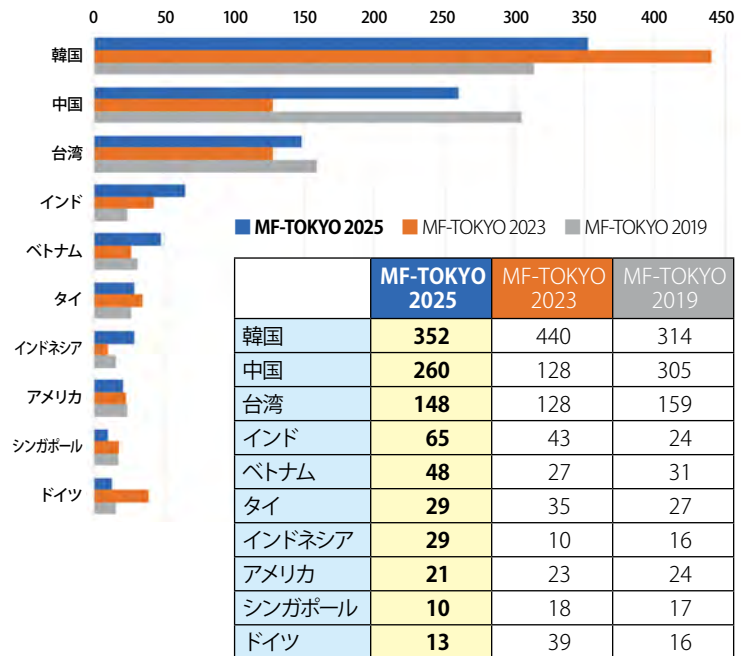
□ご来場の目的は達せられましたか？



海外来場者の動向

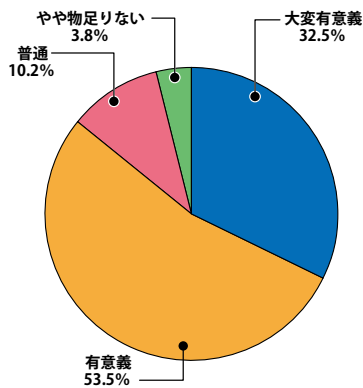
今回の来場者数上位10カ国の過去3回分の動向をグラフにした。今回の特徴は、中国からの来場者が復調してきた一方、韓国からの来場者数が100名近く減少した。韓国からの出展者は前回より増加しただけに、来場者減の理由は判然としない。他では、インドとベトナムからの来場者が伸びを示した。

□海外来場者の国別参加者比較

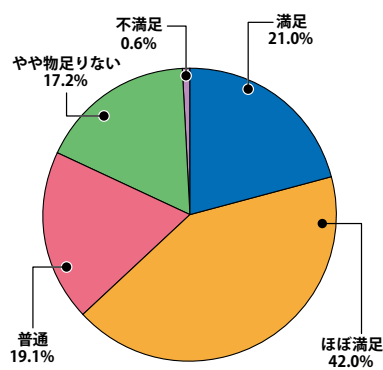


出展者アンケート 回答数157社(会員49社 非会員108社)

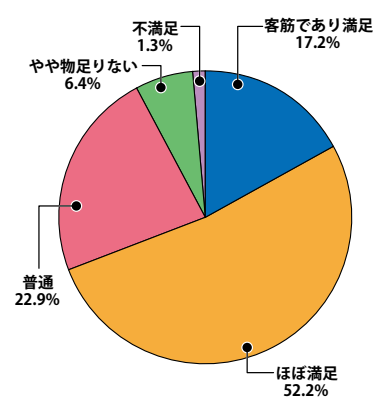
□本展示会の「会場構成」の感想をお聞かせください。



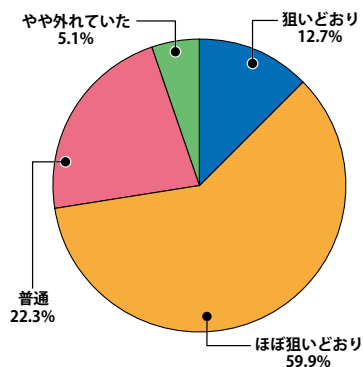
□来場者数について



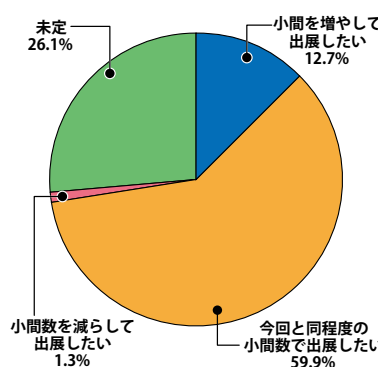
□来場者層について



□説明を聞いていただいた来場者は狙いとしたユーザー層でしたか



□次回の出展について





●H1F200-2 Upgrade

高汎用性・高生産性サーボプレスにDXと超高精度機能を標準装備

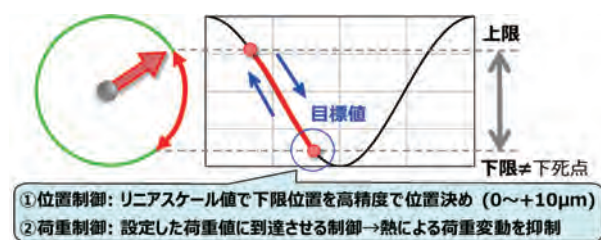
1.開発の背景

サーボプレスは振子モーションによる生産性向上に加え、低速成形による発熱・振動の抑制により金型寿命の延長と製品精度の安定が可能となる。一方で、スライドモーションの最適設定は自由度が高いため高度な知見が求められる。H1F-2にはこの最適設定の支援機能があるが、さらに使いやすく、加えてDX支援を強化するため、新操作盤の搭載と荷重波形監視機能を追加した。さらに超高精度製品の安定生産を可能にする新機能「荷重制御」を標準装備した「Upgrade機」を開発・販売開始した。

2.新商品の特徴

Upgrade機では、偏心荷重や打ち抜き振動による金型摩耗や製品の品質低下を防止するIoTを活用した「Komtrax使われ方モニタ」を標準搭載。従来は有料オプションだったこの機能を標準搭載する。さらに異常時には生産を自動停止させる監視機能も追加し、不良品の発生を未然に防ぐ。また、コマツ産機独自の反転モーション機能に「荷重制御」を新機能として追加した。

●反転モーション



従来から搭載している位置制御(±10μm)に加え、荷重制御では±10kNを実現し、成形品の特徴に合わせた超高精度な成形が可能となった。

3.開発・技術のポイント

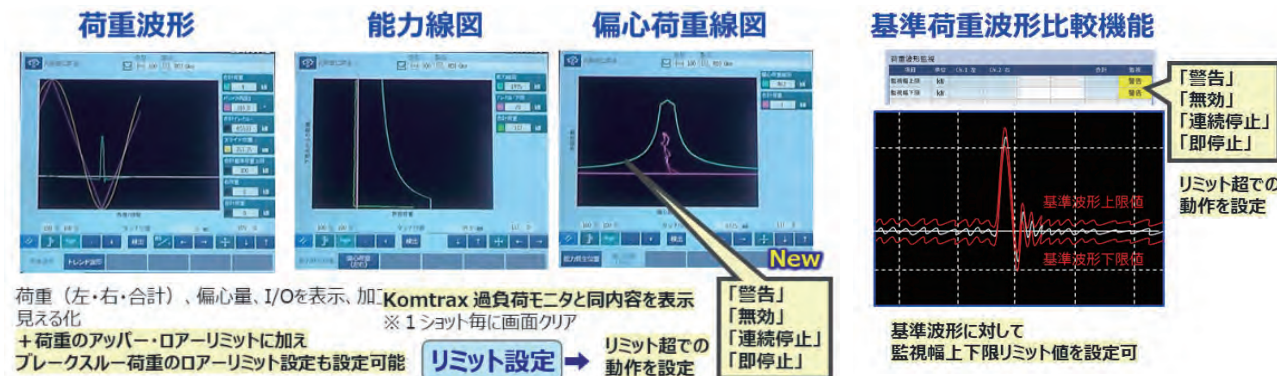
H1F-2シリーズにはリニアスケールと荷重計による監視で、スライド位置や成形荷重を適正値に補正する機能を搭載している。コマツ産機独自の反転モーション機能はこの技術を応用し、材料の板厚・硬度のばらつき、加工熱による金型温度の変化、プレス使用環境の温度変化などの外乱があっても、スライド位置や成形荷重の目標値に制御できるフルクロード制御の標準搭載を実現した。

また、異常監視機能においては、仕様線図(能力・偏心)に対する荷重表示や、荷重波形にユーザ独自のリミット線を設定でき、逸脱時に生産を停止する「基準荷重波形比較機能」を開発。Komtraxの表示機能の一部をプレス本体に搭載することで、プレス現場での状態変化時の即時対応力が向上した。

4.環境への配慮

現場の課題に見える化し、後工程の削減を図ることで無駄を排除、さらに新型サーボモータの搭載により、従来のメカプレス比で消費電力を55%削減し、ランニングコスト低減とカーボンニュートラルに貢献する。

●荷重波形表示、仕様線図に対する荷重表示、基準荷重波形比較機能



報告Ⅰ 日本塑性加工学会・日本鍛圧機械工業会 産学連携企画 (第102回塑性加工技術フォーラム)

「新たな価値創造と業務改革を進める省人化生産技術」開催のご案内

本フォーラムは、日本塑性加工学会と日本鍛圧機械工業会による企画行事で、7回目の開催となります。今回は、人手不足や生産体制の変化といった社会的リスクを成長のチャンスと捉え、新たな価値創造と業務改革を進める省人化技術、デジタル化技術、教育分野の最先端技術や研究について幅広く発表されます。

さらに、本フォーラムは、塑性加工技術の研究開発に関して産学連携を深めることのできる内容となっています。講演会終了後に、講師や参加者同士の情報交換とネットワークづくりのための懇親会（参加費無料）を行います。奮ってのご参加をお待ちいたします。

日 時：2025年12月5日（金）13:30～19:00

会 場：機械振興会館 ホール（地下2階）

東京都港区芝公園3-5-8

■プログラム（詳しくはホームページをご覧ください）

13:40～14:30

「鍛造のデジタルトランスフォーメーション」

日産自動車株式会社 藤川 真一郎 氏

14:30～15:10

「レーザー微細加工におけるインフォマティクス技術の活用」

産業技術総合研究所 吉富 大 氏

15:30～16:10

「革新的な金属加工技術に寄与するプロセス可視化とDXへの取り組み」

東京都立大学 楊 明 氏

16:10～16:50

「外観検査AIの変遷：深層学習からマルチモーダル活用へ」

岐阜大学 林 良和 氏

17:10～19:00 懇親会

■参加費用・申込方法

【日本鍛圧機械工業会会員】

参加費無料です。会員代表者各位へメールでご案内します。直接日鍛工事務局までお申込み下さい。

【日本塑性加工学会会員・一般の方】参加費（税込）

正会員・賛助会員 協賛学協会個人会員	学生会員	一般	会員外学生
10,000円	5,000円	15,000円	7,500円

申込方法：学会ホームページ(<http://www.jstp.or.jp>)の「行事案内」よりお申込みください。

後日、参加券・請求書をお送りします。

懇親会参加希望の方は、申込みフォームの備考欄に「懇親会参加希望」と必ず明記してください。

（懇親会参加費は無料です）

報告Ⅱ JIMTOF2026（第33回日本国際工作機械見本市） 10月1日（水）より出展申込を開始！



（一社）日本工作機械工業会と（株）東京ビッグサイトが主催し、（一社）日本鍛圧機械工業会が協賛するJIMTOF2026＜会期：2026年10月26日（月）～31日（土）＞の出展申込が10月1日（水）より開始します。出展される会員各位はJIMTOF公式Webサイトよりお申込みください。

■出展申込期間＜主催者・協賛団体会員＞

2025年10月1日（水）9：00～10月31日（金）23：59

■出展申込方法

JIMTOF公式Webサイトの「出展申込フォーム」よりお申込みください。

Webサイト以外からのお申込みは出来ません。

【JIMTOF2026 出展申込ページURL】 <https://jimtof.org/jp/apply.html>

■キービジュアルとキャッチコピーについて

最先端のものづくりと次世代へと継承されていく技術を折り鶴をはじめとした「折り紙の鳥」で表現されています。多彩な鳥たちは工作機械に関連する様々な業界を象徴しており、産業全体がJIMTOFを通じて世界へ、そして未来へと飛躍していく姿が描かれています。「果てなき高度へ 羽ばたく技術」というキャッチコピーには、JIMTOFに集結する工作機械業界の高度な技術がさらなる高みへと羽ばたき、果てしない未来に繋がっていくという願いが込められています。

日鍛工 調査統計委員会2025年暦年 中間受注見通

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

2025年7月28日

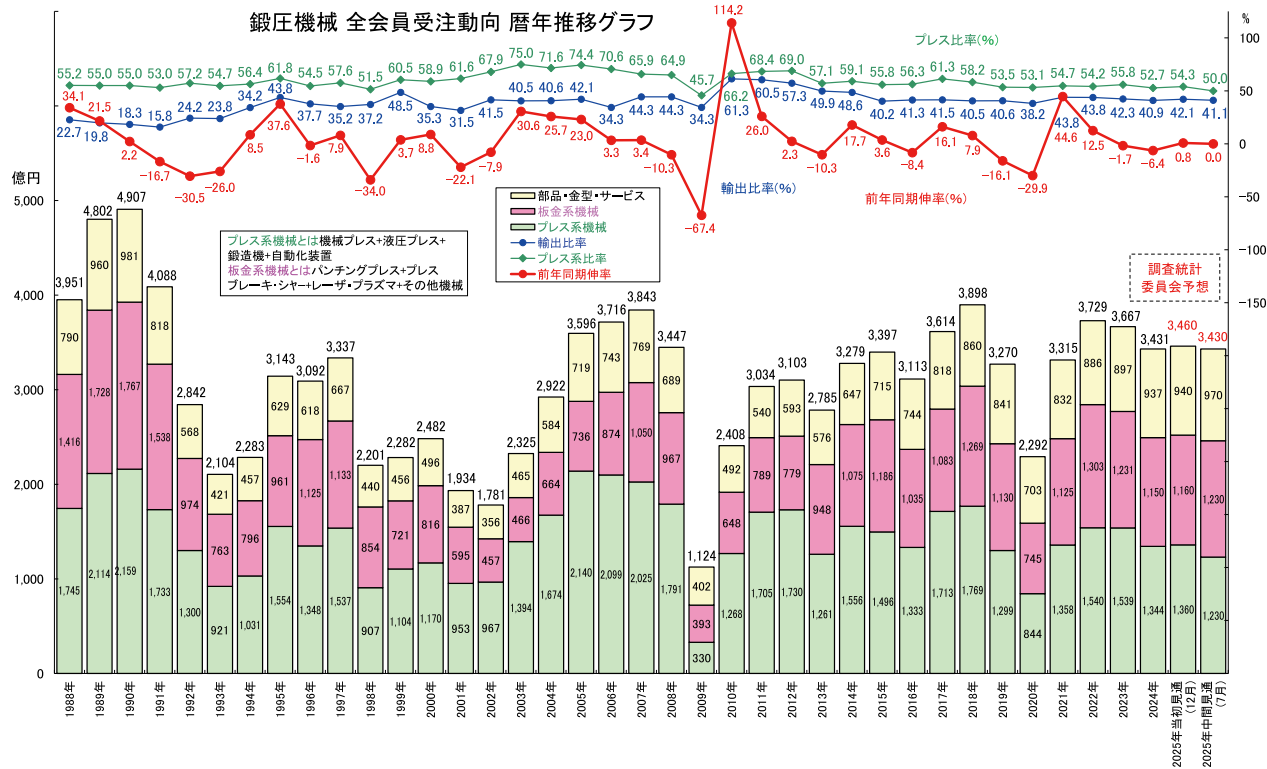
概況 : 2025暦年の受注見通しは3,430億円、前年とほぼ同レベルで、昨年12月の予想からは下方修正となった。輸出は中国経済の低迷、東欧紛争の長期化、さらにはトランプ関税の影響もあり、上半期は低調に推移した。特にプレス系は自動車関連でのEV化に向けた設備投資の伸び悩みとトランプ関税に対する先行き不透明感によって投資が抑えられた感がある。関税率が決まったことにより、後半は動き出すものと思われる。

一方、板金系とサービス系は内外ともに堅調に推移しており、後半も続くことが期待できる。

機種別 : 2025暦年のプレス系は1,230億円、前年比8.5%の減とみた。国内・海外ともに自動車のEV化対応の先行投資も受注残はあるが、新規需要としては一般感が見え、大型機械の投資は更新需要が一定程度期待できる。板金系は1,230億円、前年比7.0%増とみた。国内は各種経済政策等による景気の下支えがあり、社会インフラ工事による建材関連も堅調に推移しており、後半も継続が期待できる。サービス系も堅調に推移しており、970億円、前年比3.5%増と昨年に続き900億円越えが期待できる。

国内 : 2025暦年の国内は1,450億円、前年比1.7%減とみた。国内では政府による経済対策の下支えはあるものの、自動車の設備投資に勢いがなく、後半に向けては板金系の上向きを期待する。

輸出 : 2025暦年の輸出は1,010億円、前年比0.9%減とみた。前半の落ち込みから、中国向け回復と、北米向けの関税決定による持ち直し、インド等新興国の回復を期待する。



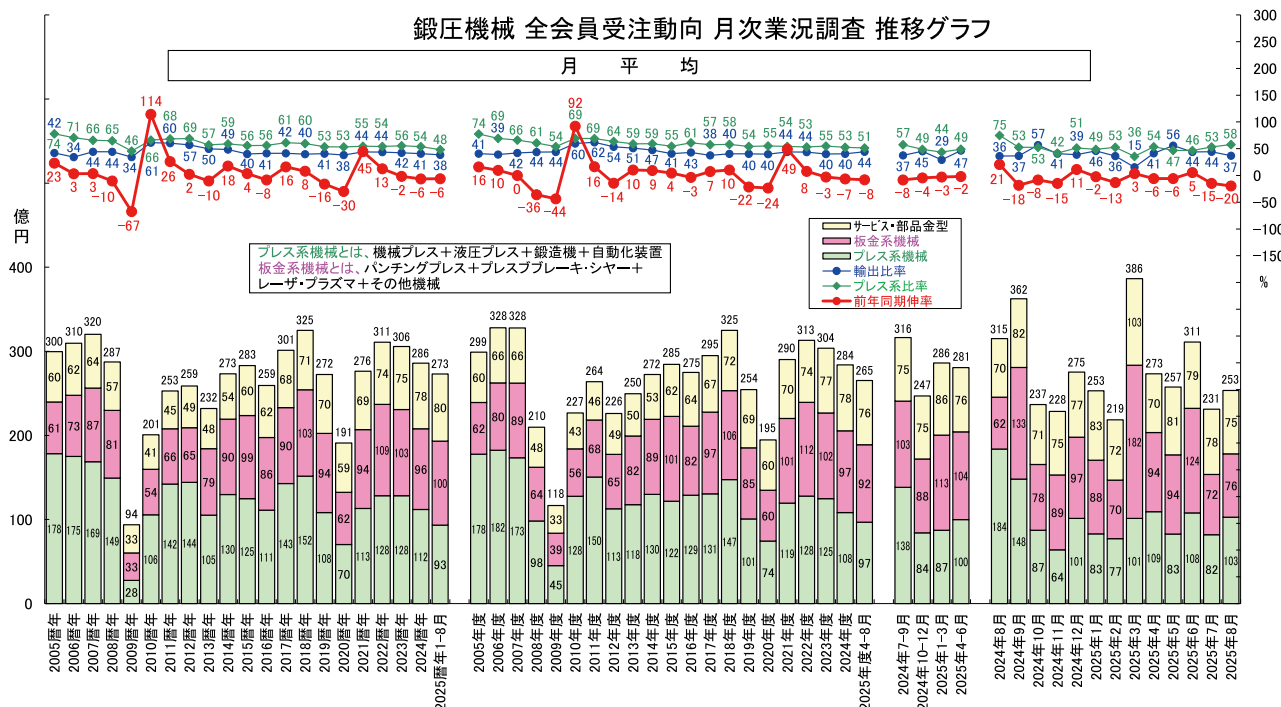
鍛圧機械 全会員受注グラフ (月次業況調査)

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

2025年9月8日

2025年8月度 鍛圧機械 全会員受注動向 月次業況調査コメント

- 概況 受注総合計は253.4億円で、前年同月比で19.6%の減となった。昨年はプレス系で大きく伸びていた関係で、今回はプレス系が大幅にマイナスとなり、板金系、サービス系はプラスとなった。プレス系以外は国内・輸出ともに堅調に推移していることもあり、プレス系の復調が待たれる。
- 機種別 プレス系機械は102.6億円で44.1%の減となった。自動化装置のみ69.6%増で、小型・中型・大型・超大型プレス、油圧プレス、フォーミングと軒並みマイナスであった。板金系機械は75.5億円で22.4%の増であった。ブレーキ・シーア・レーザ・プラズマ70.0%の増でパンチングは28.4%の減であった。サービス系は75.3億円で8.0%の増であった。
- 内外別 国内は112.4億円で28.1%の減となった。輸送63.3%増、鉄鋼59.4%増、金属40.1%増、一般34.0%増で、電気のみ11.4%減であった。(機種計) 輸出は65.8億円で26.1%の減であった。中国向44.2%増、東南アジア向3.2倍、韓国向5.2倍であったが、北米向37.9%減、欧州向71.9%減、インド向け65.4%の減であった。



日刊工業新聞、日本経済新聞、全国紙、一般紙などに掲載された会員の記事を抄録して順不同で掲載します。

今回は、2025年6月10日から2025年9月2日に掲載された記事が対象ですが、決算、人事などの情報は除外しています。

日本鍛圧機械工業会+共通

- 鍛圧機械受注、5月5.6%減 2カ月連続減 プレス低迷
2025/06/12 日刊工業新聞 11 ページ 831 文字
- 日鍛工、レーザー管理者講習
2025/06/12 日刊工業新聞 12 ページ 248 文字
- MF-TOKYO 2025 /インタビュー (1) 日本鍛圧機械工業会会長・磯部任氏
2025/06/19 日刊工業新聞 10 ページ 1237 文字
- 主張／塑性加工の魅力、次世代に 東京農工大学名誉教授・桑原利彦
2025/06/23 日刊工業新聞 4 ページ 1046 文字
- 6月の鍛圧機械受注、5.3%増 3カ月ぶり300億円超え
2025/07/15 日刊工業新聞 10 ページ 638 文字
- MF-TOKYO、きょう開幕 人と地球に技術で貢献
2025/07/16 日刊工業新聞 1 ページ 342 文字
- 深層断面／鍛圧機械、人手不足対応を積極化
2025/07/16 日刊工業新聞 28 ページ 2910 文字
- 「MF-TOKYO」レセプション／人手不足解決へ「機械が一堂に」磯部日鍛工会長
2025/07/17 日刊工業新聞 3 ページ 302 文字
- 鍛圧機械各社、稼働分析サービス進化
2025/07/17 日刊工業新聞 1 ページ 1249 文字
- MF-TOKYO、19日閉幕 来場3万人
2025/07/21 日刊工業新聞 3 ページ 285 文字
- 今年の鍛圧機械受注見通し、3430億円に下方修正 米関税で輸出低調
2025/08/01 日刊工業新聞 9 ページ 600 文字
- 鍛圧機械受注、7月14%減 板金、国内向けが低調
2025/08/11 日刊工業新聞 8 ページ 938 文字

プレス機械系

- アイダエンジニアリング**
 - アイダエンジニア、円筒形蓄電池ケース成形機を投入 生産性5割増
2025/06/25 日刊工業新聞 1 ページ 670 文字
 - 金属加工、ロボで生産性向上 アイダエンジニア・アマダ、操作性追求・解決策を提案
2025/07/16 日刊工業新聞 1 ページ 1201 文字
- アイシス**
 - 微細品を高速プレス アイシスが新型機開発 振動制御、難加工材向け
2025/07/04 日刊工業新聞 9 ページ 388 文字
- しのはらプレスサービス**
 - プレス機ワーク自動着脱 しのはらプレスが装置
2025/06/17 日刊工業新聞 10 ページ 720 文字
- ニデックドライブテクノロジー**
 - ニデック、滋賀にプレス機集約 拠点統廃合で固定費圧縮
2025/06/27 日刊工業新聞 1 ページ 725 文字
 - ニデックドライブテクノ、大型金型対応のプレス機 加圧能力も最大
2025/07/10 日刊工業新聞 11 ページ 708 文字
- 山田ドビー**
 - 世界最速5000SPM…山田ドビーが開発、高速精密プレス機の性能
2025/07/13 日刊工業新聞ニューススイッチ 568 文字
 - 山田ドビー、振動溶着機に参入 小型・静音
2025/07/18 日刊工業新聞 10 ページ 358 文字
 - 次代を担う中部企業 (61) 山田ドビー 1000トン級プレス機拡充
2025/09/01 日刊工業新聞 28 ページ 1114 文字
- アサイ産業**
 - アサイ産業、油圧プレス機開発 高精度で省スペース
2025/07/21 日刊工業新聞 8 ページ 347 文字

三菱長崎機工

- 三菱長崎機工 50周年を祝う／「さらなる発展へ」
2025/06/10 長崎新聞 9 ページ 406 文字

ユタニ

- 経営ひと言／ユタニ・辰巳芳丈社長「新入社員が考案」
2025/07/25 日刊工業新聞 11 ページ 237 文字

板金機械系

アマダ

- 13軸で高速・高精度 アマダプレスがパネ成形機
2025/06/18 日刊工業新聞 9 ページ 497 文字
- 協働ロボ、曲げ加工自動化 アマダ、プログラム作成容易
2025/07/07 日刊工業新聞 10 ページ 501 文字
- 金属加工、ロボで生産性向上 アイダエンジニア・アマダ、操作性追求・解決策を提案
2025/07/16 日刊工業新聞 1 ページ 1201 文字
- アマダ、ESG構成銘柄に選定 世界的投資指数、30年指針など評価
2025/09/02 日刊工業新聞 News ウェーブ 21 14 ページ 356 文字

相澤鐵工所

- 相澤鐵工所、寸法測定機を開発 画像処理で高速・高精度
2025/07/03 日刊工業新聞 1 ページ 750 文字
- 鋼板反り・ねじれ抑制 相澤鐵工所、汎用せん断機
2025/07/07 日刊工業新聞 11 ページ 631 文字

アルファTKG

- 「板金AI」ロボ拡充 アルファTKG、検査・バリ取り
2025/07/09 日刊工業新聞 9 ページ 635 文字

オーセンテック

- 第55回機械工業デザイン賞IDEA (6) 日本商工会議所会頭賞 オーセンテック
2025/08/08 日刊工業新聞 10 ページ 811 文字

小池酸素工業

- 小池酸素工業／DBCレーザで出力40kW／国内最大級、開先仕様を開発／韓国造船大手に1号機
2025/08/20 鉄鋼新聞 2 ページ 823 文字

キャドマック

- キャドマック、板金用3D CAD基盤 Saas対応
2025/07/11 日刊工業新聞 11 ページ 475 文字
- 経営ひと言／キャドマック・高垣内昇社長「案件が2倍に」
2025/08/19 日刊工業新聞 11 ページ 232 文字

トルンプ

- 自動化を支える／トルンプ 板金加工工場全体を効率化
2025/08/05 日刊工業新聞 8 ページ 789 文字

村田機械

- 村田機械、曲げ加工システム投入 ロボ用CAMで自動化
2025/07/08 日刊工業新聞 10 ページ 409 文字
- 村田機械、加工機稼働状況を確認 クラウドシステム提供
2025/07/09 日刊工業新聞 8 ページ 500 文字
- 村田機械、中厚板向け複合機 1台でレーザー・切削加工
2025/07/03 日刊工業新聞 10 ページ 657 文字

ユーザック

- ユーザック、溶接向け集塵機 自動でヒューム固化
2025/07/10 日刊工業新聞 9 ページ 515 文字

吉野機械製作所

- 生成AIで機械維持管理 吉野機械製作所がシステム 作業負担を軽減 異常を検知対策も…曲げ加工機の製造などを手がける吉野機械製作所 (千葉市) は、機械の保守メンテナンス…
2025/07/12 日本経済新聞 地方経済面 千葉 39 ページ 絵写表有 1076 文字

フォーミング機械系・その他

旭サナック

- 旭サナック、2ダイ2プロタイプのヘッダー発売 段替え時短・生産性向上
2025/06/25 日刊工業新聞 11 ページ 479 文字

旭精機工業

- 旭精機、ライン一式販売 プレス・パネ機の付加価値向上
2025/07/17 日刊工業新聞 1 ページ 649 文字

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 会員一覧

2025年10月1日現在 五十音順・法人格省略

会員（108社）

相澤鐵工所	ジャノメ
アイシス	杉山電機システム
アイセル	住友重機械工業
アイダエンジニアリング	ゼロフォー
アサイ産業	ソノルカエンジニアリング
浅野研究所	大陽日酸
旭サナック	大東スピニング
旭精機工業	大同マシナリー
アマダ	ダイマック
アミノ	高千穂システムエンジニアリング
アルファ TKG	タガミ・イーエクス
Astemo	伊達機械
ITACA JAPAN	ティーエス プレシジョン
板屋製作所	東京精密発條
Eブラン	東和精機
エイチアンドエフ	トルンプ
エーエス	中島田鉄工所
エステーリンク	中田製作所
エヌエスシー	ニシダ精機
榎本機工	ニデックドライブテクノロジー
HSG エンジニアリング	日本オートマチックマシン
大阪ジャッキ製作所	能率機械製作所
大阪ロール工機	バイストロニックジャパン
オーセンテック	パスカル
大峰工業	日高精機
オプトン	ファナック
型研精工	ファブエース
金澤機械	富士機工
川崎油工	富士商工マシナリー
川副機械製作所	フリーベアコーポレーション
関西鐵工所	PEM Japan
ギア	放電精密加工研究所
キャドマック	ホンダクリエティブ
キョウシンエンジニアリング	ホルビガー日本
協和マシン	松本製作所
栗本鐵工所	万陽
京葉ベンド	三菱長崎機工
ゲルブ・ジャパン	宮崎機械システム
KH エンジニアリング	村田機械
小池酸素工業	メガテック
向洋技研	モリタアンドカンパニー
コータキ精機	森鉄工
コスメック	ヤマザキマザック
コニック	山田ドビー
コマツ産機	山本水圧工業所
コムコ	油圧機工業
小森安全機研究所	ユーザック
阪村機械製作所	ユタニ
阪村ホットアート	吉田記念
サルバニーニジャパン	吉野機械製作所
三起精工	理研オブテック
三共製作所	理研計器奈良製作所
しのはらプレスサービス	理工社
澁谷工業	レーザ技術サービス



会報METAL FORM No.96 2025年10月

2025年10月1日発行 No.96（季刊1,4,7,10の月の1日発行）

発行所 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館3階 電話03(3432)4579(代)